



さらなる成長に向けた態勢ができあがっている、と PPG 会長が語る

【米国ピッツバーグ、(ビジネスワイヤー)2004 年 4 月 15 日】

塗料、ガラス、ガラス繊維、化学品のグローバルメーカーであるピーページー・インダストリーズ (PPG) の会長兼最高経営責任者レイモンド・W・ラバアフは、将来の景気回復による業績拡大を達成するための施策を景気後退期の間迅速に実施しており、さらなる成長に向けた態勢ができあがっている、と米国ピッツバーグで開催された定時株主総会で発言しました。

「PPG では、世界経済について 3 年ぶりに楽観的な見方をしています。景気回復が弊社にとっての好材料であることは明らかですが、それと同様に重要なのが、将来的な景気回復による業績拡大を達成するために景気低迷期において数々の対策をとったことでした。」

「PPG の役員は、2000 年後半に景気後退の兆候を認め、現金収入の増加とコスト削減の加速を重視する方針に早急に転換する一方で、既存事業の成長を目指す方針を堅持しました。」ラバアフ会長兼 CEO は、このように語りました。

2003 年、PPG の営業活動による現金収入は創業以来最高の 11 億ドル(1,210 億円)となり、同社は債務を 4 億ドル近く(440 億円)削減することに成功しました。その結果、2003 年末には総資本負債率が同社の目標であった 40%に到達し、さらに 36%まで圧縮されました。これに加えて PPG の現金持ち高は 2003 年に約 3 億 7500 万ドル(412 億 5000 万円)増加しており、2004 年にも堅調なキャッシュフローが予想されています。

「手持ち現金を増やすことで、債務のさらなる圧縮や企業買収を含む成長のための投資を目指した態勢を整えることもできます。」

「今のところ大規模な企業買収の構想はありませんが、小規模な企業買収、特に弊社の光学製品、建築用塗料、工業用塗料事業との関連での買収があるかもしれません。今後 5 年間はこれらの事業での成長が予想されています。(いずれもラバアフ会長兼 CEO)」

またラバアフ会長兼 CEO は、PPG が堅調な業績を持続させているもう一つの理由として「コスト削減能力」を挙げています。この 5 年間に、PPG では、3 億 5000 万ドル(385 億円)以上に相当する生産効率の向上が達成されています。

「アジアにおける塗料の売上高は、1999年の2倍に達しており、2003年には前年比25%増を記録しました。またアジアでの成長は、PPGの工業用塗料部門の成長に貢献しました。同部門では、ノートパソコンから携帯電話、トラクター、ブルドーザー、オフィス家具、汎用航空機器といった数多くの最終用途向けの塗料を供給しています。PPGの建築用塗料部門も成長を続けており、1996年以来、同部門の売上高と利益は前年比13%増のペースで伸び続けてきており、営業利益はさらに大きく伸びています。
(ラバアフ会長兼CEO)」

お問い合わせ先:

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-15-1

渋谷クロスタワー13階

PPGジャパン(株)

工業用塗料部

TEL 03-3476-7015

FAX 03-5778-2557

E-mail: sales_japan@ppg.com